

2008年5月



発行

白子川源流・水辺の会
代表 菅沢 博
(03-3923-8430)

事務局

練馬区東大泉 6-36-4-301
副代表 本田 純
(03-3924-9181)

編集 渋谷 瞭司

題字 宮本 沙海

昭和30年代、千葉の田舎の小川にかかっていた一枚板の小さな橋を想い出す。立つとゆらゆら揺れて、田園風景が上下に動くのが面白かった。あの時の、橋と風景と自分自身との一体感はきつと、ドロまみれになって田んぼで働く村の人との一体感だったのだろう。その橋のことを誰も話題には出さない程、生活と一緒にの橋だった。▼白子川源流の井頭橋から下流 1.3kmほどのところに、古道「清田道」に中島橋(大泉小下)がある。どこにでもある通り過ぎるだけの橋で、

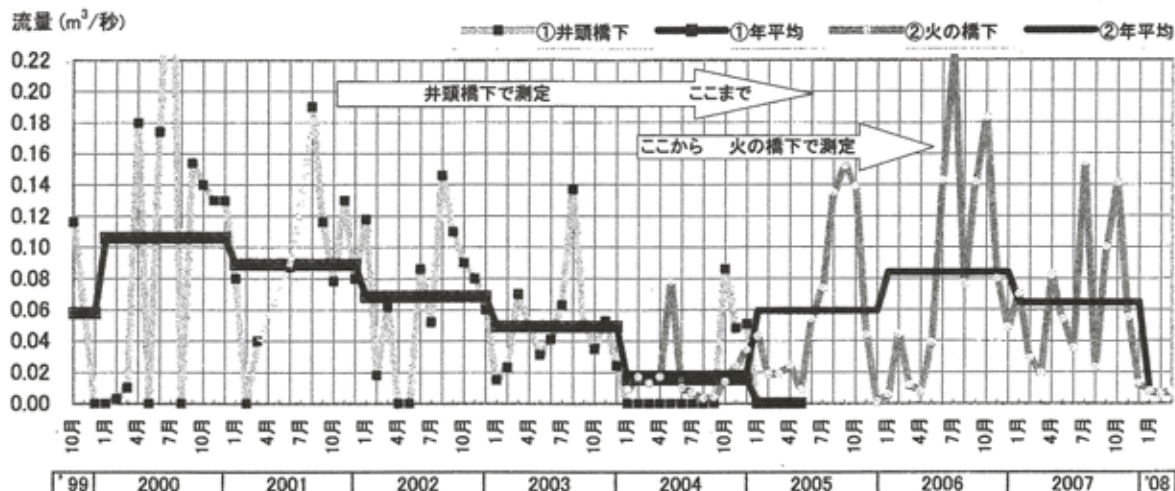
下を流れる白子川はそっけなく流れ、橋で佇む人もいない。▼ここから下流には、八の釜の湧水を守っている人たちがいるし、また長い間、地域とともに歩んできた情熱を今、堰を切ったように、白子川の河川改修に注ぎ始めた人たちもいる。そして、上流の源流近くには、当会の会員が多く住んでいる。▼長い歴史のある中島橋。人・自然・地域を大事だと思い、行動している人々の中程に位置する“結び目”の橋とも言える。週末には、ぶらっと中島橋に出かけてみたい。

(菅沢 博)



<中島橋> 萩原 和雄

白子川源流での流量（上流での湧水量の移り変わり）



- ・このグラフは、'99年10月から'08年3月までの、白子川源流での川を流れる水の量を表しています。流れている水の量は、その上流での湧水量です。
- ・一年間の平均湧水量が年ごとに増えたり減ったりしています。そして、そのピークが6年ごとに訪れています。
- ・また、井頭橋下で水涸れが続いたので、観測地点を下げて、火の橋下に移しました。水が湧きだす地点が下流に後退してしまう湧水が'04年と今年見られました。
- ・ピークの量も右肩下がりでです。

このグラフから予想できることは何でしょう？

白子川の源流の湧き出し地点が下流に後退し、井頭公園の木道（井頭橋から上流）での慢性的な水涸れです。

これを防ぐ方法があります。

湧き水の源は、皆さんの家の屋根に降る雨です。現在、その雨は下水道に行ってしまっています。皆さんの土地に浸みこまないために、地下水にならないのです。東大泉や南大泉の高台に住んでおられるご家庭が、雨樋の水を地下に浸透させ、下水道に捨てないようにすれば、網の目のような地下水脈が活き返って、少しでも白子川源流の水涸れを防ぐことになるでしょう。

雨樋の下に雨水浸透枡を設置しましょう。

私たちは、これからも水量調査を続けて、白子川源流の湧き水のことをお伝えします。



湧き水が涸れて、流量調査ができない白子川源流

地下水は川底のすぐ下にあった。

1月の定例活動の27日(日)、誰もが気になっていた”干上がった川底”の下に地下水はあるのだろうか、誰かが穴を掘り出した。沢山の石に奮闘しながら掘り続けて、20センチ程掘ると水がにじみ出てきた。もう少し掘ったら、水が噴出すようになってきた。そして、見る見る濁っていた水が透き通り湧き水に砂が舞っている。すぐそこに地下水はあったのだ。

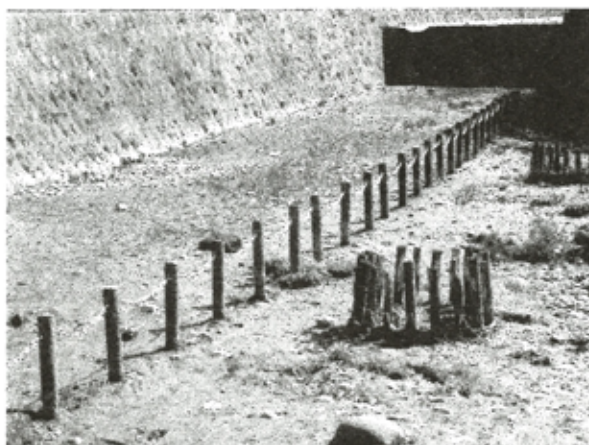
一同、ホッとした瞬間でした。



20センチ程掘ると水が！ (1/27)



干上がった源流



哀れ！ オオフサモも枯れ果てた



バケツリレーで魚を救え！



数日後には、川底が乾燥



わずかに残る水も日に日に減った

ホトケドジョウが危ない!!

==オオフサモの堆積と川底のドロの悪化==



この冬は、厳しい渇水だった(これほどの渇水は、7年半の活動では2回目だったと思う)。川の生き物や植物にとっては、生命線が絶たれたのではないかと心配だが、川底の形状、ドロの堆積量と質、生き物の“避難”状況などをじっくり観察できる、またと無いチャンスであった。

■オオフサモの茎の堆積と陸化

源流にはびこって5-6年の外来種オオフサモ。見た目は美しいが刈り取りっても刈り取っても増え続けるこの水草の大量の茎は毎年しっかりと地中に残り、ドロと一体となって層(約20cm)を成し、したたかに「陸化」を狙っていることが、掘り下げてわかった。

この部分の栄養度をチェックするために、ドロを採取し溶液を観察して間もなく、ミズ?一匹が顔を出して死亡し、最近になって小さい虫が数匹発生しただけ。手抜きを観察だが、栄養度はきわめて低いものと推測できる。ホトケドジョウなどの生き物にとって劣悪な環境と思われる。

川底の「オオフサモのドロ」溶液観察中



■大雨時の逆流水の沈殿

2ページに書かれてあるとおり湧水の枯渴を和らげるには、各家庭での雨水浸透枡の設置が重要だが、それにしても合流式下水道の構造的問題は如何ともし難い。

大雨時に、井頭橋上の下水吐けから逆流する「雨水汚水の合流水」



昨年夏、源流にアオミドロが大発生!!

が川底の悪化をもたらしている。逆流水は数日後には、湧水とともに下流に消えが、消えるのは“うわずみ”だけで、川底にはさまざまな物質が沈殿し、土壌(川)を悪化させている。

*

■オオフサモ、湧水、雨水浸透枡、ドロ(ヘドロ)、アオミドロ、大雨時の逆流水、渇水、井頭堰のあり方... 私たちの力を超えた課題も含めた状況のもとで今年も、ホトケドジョウは生きながらえてくれるといいが...。(菅沢)

白子川讃歌

メロディ: 「王将」
「瀬戸の花嫁」

作詞: エコローロ・池野



こぐれの里、南大泉に住むこと40数年、私や家族にとって故郷となりました。当「水辺の会」の諸先達が熱心に川の保護活動する姿に感動して、その想いを替え歌に託しました。

- 吹けば飛ぶよ(う)な小さな川に、
かけた想いを笑わばわらえ。
故郷の川を再現せんと、
尽くす努力のいじらしさ。
- 我らに残った小さな自然。
今は貴重な小魚達は、
川藻の下で元気に泳ぎ、
水よ流れよ、新河岸、隅田。

- 今日は水藻の刈り取りの日だ!
ヤング、シニアもいい汗かいた。
山と積まれた川藻の山に、
こぐれの夕日が照り映える。

(注) 「こぐれ」とは、大泉西南の村(町)の古称(現在の東大泉、南大泉地区)

ウェザーステーション設置準備中

望月 広

水辺の会で白子川にかかわるようになって、2005年5月から毎朝、犬の散歩がてら、観測井戸で地下水位を測ってきました。最初は以前からあるワイヤーを引き上げて先端のセンサーが水面に当たるポイントを探り5mの巻尺を使いその長さを測っていました。2年前に超音波の距離計が3千円台で手に入ったので、マンホールを開ければ数秒で測れるようになりました。

地下水位が一番低下(水不足)したのは、2006年2月24日の3.01m、一番上昇したのは、2006年10月6日の0.91mで豪雨が降っている最中の記録で、そのとき白子川には道路面から1m少し下まで濁流が流れているという状況でした。急に水位が上昇したときは、帰宅後、アメダスのホームページから練馬区江古田の雨量を見るのですが、24時間分しか出てないので、降水量と地下水位の関連がイマイチあいまいな感じが否めませんでした。

昨年、久しぶりにアマチュア無線の雑誌を見ていたら、米国や欧州、日本でも無線やインターネットの上で気象観測データを発信している人がいることを知りました。日本の気象観測器のメーカを調べると雨量計だけでも20万円、プラス、ソフトが10万円ほどします。米国のそれは、数万円程度とえらく開きがありました。結局米国のデイビス社の気象観測器の個人輸入申し込みを12月23日に行い、1月7日には製品が到着しました。送料込みで10万円ちょっとの費用でした。

<アナログとデジタル>

私がアマチュア無線を始めた頃は、トランジスタもあるにはあったのですが、送信・受信機とも真空管の時代でアルミのシャーシーにドリルで穴を開け、ヤスリで広げてから、ハンダ付けの作業と今で言うアナログの時代でした。昨年末に最新とも言えるデジタル通信にも対応できるアマチュア

無線用の通信機(トランシーバ)とアンテナを購入年明けにはベランダにウェザーステーションを設置しました。

デイビス社の気象観測器は雨量、外と室内の温度・湿度、風向・風速、気圧、日の出・日没時刻紫外線量を計測し、デジタルデータとしてパソコンで処理できるはずです。と言うのはソフトのCDに少し傷を付けてしまい、私のパソコンでは読み込みが出来ず(会社のパソコンでは読めた)、取扱説明書も英文だし観測装置、パソコンと無線の接続はまだ出来ていません。

と言うことで、ウェザーステーションの開設まではアナログ人間の私には幾多の困難が続きそうです。

<http://www.ariss.net/> など見ていただければ世界的な拡がり理解できると思います。



ベランダに設置した"ウェザーステーション"



聞き取り調査再開

昔の白子川上流域の地形、文化、人びとの生活がどんな様子だったかを聞き取り調査する取組み『白子川の記憶』が再スタートしました。数年後には、学校の副読本になることをめざしています。

白子川の記憶 ① 妙福寺付近

菅沢 恵子

桜も見頃の3月29日午後、“昔の白子川周辺の話”を聞くため、話し手・高橋豊治さん(当会会員)のご自宅前に集まった。昭和2(1927)年生まれの豊治さんは「しゃべることで、忘れかけていた昔を思い出せる」と、この集まりを快く引き受けてくださった。

自己紹介のあと話されたのは、《先祖さまであるへび》と《皇大神宮のお使いで害虫を食べてくれるガマ》を大事にしていること。生きものと暮らしているからこそこのことば、早くも、タイムスリップしてしまった。



まず、隣接する妙福寺へ移動する。《あぜっぽ》の跡である“水路敷”と書かれた細い道(暗きよ)を歩く。あぜっぽというのは、雨が降ると水が溜まって流れをつくるところで、他に《しまっぽ》《がけっぽ》《つじっぽ》などと呼ばれるものがあつた(《〇〇っぽ》というのは、ことばのあとに付けて呼ぶ時のことば)。途中、南大泉五丁目児童遊園の脇にある《おまつさん》の前で足を止める。昔は、隣村といえど完全な異国。その川向こうの異国との境で、鎌を持ったおまつさんがときどき出てきて、道を歩く人たちにちょっかいをだしていたそうだ。そのおまつさんの名前が、今、“松殿橋”に残されている。

きれいに掃かれた境内では、見事に桜が咲いていた。石に刻まれた文字を読み、多行松(たぎょうしょう)という枝を広げた松を見上げる。山門に残るわら人形の釘跡に思いを馳せ、その山門が1本の杉で造られた四つ足門と聞いて、全体をながめる。鬼子母神の前に植えられたザクロの樹。毎年4月15日には、農耕馬に飾りを付けて引く《馬掛(うまかけ)》も行なったということだ。

われわれは、ふだんと違う妙福寺をたっぷり味わうことができた。



豊治さんの話から、この辺りの様子をまとめてみる。門前の道幅は現在の半分くらいで、その向こうはホテルのとぶ田んぼであった。ところがこの水田、火山灰の多い土壌だったため、ドブ田の様に深いところがある。そんな水田でも、持っている農家は裕福。貴重な米を母親は弁当に入れてくれた。手ぬぐいの小袋に弁当分だけの米を入れ、《ひき割り》（麦をこまかくしたもの）や《押し麦》といっしょに炊いてくれたものだ。その田んぼには御影（みかげ）石の橋が渡されてあったが、昔は名前がなかった。現在の宮本橋である。改築の際に、御影石は妙福寺の反対岸に埋められた。この辺りまでが湧水の水源地だった。じつは、この白子川、昔は《オオカワ》と呼ばれていた。それが、昭和30年頃、米が穫れるようにと土地改良が行なわれた時、行政の影響もあり、白子川とな

った、らしい。

とにかく、豊治さんの話はつきない。大正14年電気がひかれると息子に“デンキ”と名づけた親がいたとか、大水でできた長さ10mほどの水溜り《トラちゃんプール》は、最初にノーパンで泳いだ子どもの名前からついたとか、庭に植えられた棕櫚（しゅろ）の樹の毛は、繊維をとって縄をない、井戸の綱などに使っていたとか、または、当時のご馳走といえば、《朝まんじゅう、昼うどん、夜は田んぼの米のメシ》ということばがあるくらい、米のメシはあこがれだったのだ。「おまつさんも、きょうはきっと喜んでいるでしょう」と豊治さんは締めくくった。

今回は、野菜のいい洗い場だったという新道の通る泉橋で終わりにした。

次回は、線路の南側から始める。



竹炭づくりスタート

白子川の3WA! 「和・輪・環」

田中 麗子

木を用いてつくる炭には300万年もの歴史があります。国土の三分の二を森林で占められている日本では、炭づくりにも見られるように「在るものを活かす」という循環が上手に行われてきました。高度成長期（昭和30年代）には炭やきさんと呼ばれる職人がたくさんいました。窯（かま）の状態を煙の色とにおいでつかむという優れた伝統技術は炭づくりの機械化・工場化により、徐々に失われてしまいました。

水辺の会で行う炭づくりは、このような本格的な炭やきではありませんが、ドラム缶を用いて2~3時間で作るいわば「体験版」の炭づくりです。定例活動している場所からすぐ近くの東大泉7丁目の敷地（通称：みどり広場）の竹を使用してつくります。

炭づくりは、何よりも体験することが最も必要なこととされてきたそうです。少しでも興味をお持ちでしたら、ぜひ竹炭づくりにお越しください!!

※ 静岡県駿東郡長泉町立「桃沢少年自然の家」主催の
竹炭づくり講習会での体験記録は次号でお知らせします。

その1「和」・・・竹炭

◆ 用途は生活全般です。

例えば、

- ・水の浄化（水槽、花瓶のお花）
 - ・生ゴミの堆肥化を活発にし臭いも吸収。
 - ・炊飯時、入れるとお米がふっくら。
 - ・マイナスイオンを放出
- ⇒つまり、主に燃料として利用される木炭に比べ、竹炭はガス吸着や抗菌が優れている。

普段の暮らしの中に、取り入れやすいグッズだといえます。また、決まった使用方法がないので、その使用法は未知数です。

その2「輪」・・・竹炭

写真のページにもあるとおり、ドラム缶を横にし切り込みを入れてかまどを作成し、地元・大泉の竹を用いての炭づくりです。竹を刈るところから始まり、薪割りや火おこし、土中に埋めるための穴掘りなど力仕事がたくさんあります。

自分一人では決してできない作業です。皆で取り組むという人との輪、達成感、楽しさを感じていただけることと思います。

川の中に入っただけの掃除や生き物探索をしているときとは違った新しい“発見”がたくさんあると思います。

その3「環」・・・竹炭

完成した竹炭は、以下の2つの循環を行うことが目標です。

- ①白子川の浄化。
河川浄化に竹炭を用いるには何百キロという単位の炭が必要になります。
- ②東大泉7丁目竹林の竹炭の商品化。勿論営利目的ではなく、皆の白子川、川の活動に使わせていただくということが何よりの目的です。

近場でできる半日キャンプ(?)
というような気持ちでぜひぜひご参加ください。
炭をやいたかまどでは焼き芋もできますよ。

竹炭の作り方

☆ 静岡県駿東郡長泉町立「桃沢少年自然の家」で初体験した「竹炭づくり」の工程写真。



①ドラム缶を用意します。



②竹を割り、オイル缶になるべく沢山詰めます。このとき、鉄の棒も一緒に入れます。



③図のようにセッティングします。



④火をおこして、焼きの作業です。



⑤最初は水分の煙がもくもくとでます。その後、薪からの炎とは別にオイル缶の穴からも炎が出てきます。



⑥土か砂場に穴をほり、オイル缶をすべて地中に埋めて、冷まします。



竹炭の完成です☆

竹炭づくり準備 — — 竹炭焼用の「ドラム缶釜」を作りました — —

竹炭が、白子川の浄化に役立ちそうだと、試してみることになり、竹炭焼き用の「ドラム缶釜」作りに挑戦しました。

3月6日（日）、春うららの陽気の午後、町田会員の庭で、汚れてもいい服装と運動靴に軍手姿で、“てっちゃん講師”の親切丁寧な指導の下に実施されました。努力の結果、誰もが自画自賛に浸る手製の「ドラム缶釜」が完成しました。

お陰様で、多くの会員がキッタハッタの修羅場を体験させていたことにより、会にとっても、“技と自信”という大きな無形財産を得ることが出来た一日でした。

あんな楽しいことは、保険をいっぱいかけてでも??、子供たちに伝授したいですね。 本番の炭焼きが待ち遠しいなあ～。



通気口開け(ハート形、ダイヤ形、など)



天井板の切り取り



完成した「ドラム缶釜」を囲んで・・・

新会員・自己紹介

菊地 千恵子

はじめまして、この度、渋井様よりご紹介いただき、42番目にお仲間入りさせていただいた通信購読会員の菊地千恵子と申します。

本田さんにMLメンバーに入れてください！などと言っておきながらアドレスが変わったことをお伝えしていなかったため、12月16日からご登録頂いていたことに、全く気付かず昨夜遅く、ひよんなことからこのメールを見つけ、青くなっております。本田さん本当に失礼いたしました。クリスマスの夜のキャンドルイベントにも参加できなかった事…、と～っても残念に思っています。

では、改めまして、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は大泉町6丁目の白子川沿いに住んでおり、“住みよいまちをつくる会”という地域住民でつくった名の通りの「顔の見えるご近所

付き合い、みんなで住みやすいまちにしたい」という者同士の市民グループの一員です。

比丘尼公園からもすぐのところ、皆さんもよくご存じの緩斜面護岸計画のある地域の者です。

この親水性の高い護岸整備を機に、この地域のコミュニティの場となるよう、大いに期待しているものの一人でもあります。

皆さんの地道な活動を教えていただきながら、私達地域住民も“みんなの白子川”と親しんでもらえるような白子川にしていきたいな～と思っています。

私達の会には、白子川を身近な川にしたいという熱い思いはありますが、川のことについてのスペシャリストはいません。

皆さんのイベントにも参加させていただきながら、いろいろと教えていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

(メーリングリストより転載)

総会に出席しよう!!

- ◎ この1年を振り返り、新たにスタートする大切な会合です。
- ◎ 会への提案や思っていることなどみんなで検討する場でもあります。
- ◎ 会の活動を、映像でごまかくご紹介。
- ◎ ふだん活動に参加できない方こそ、どうぞ、お気軽にご出席ください。
(簡単な懇親会もあります)

6月15日(日)

13:30~17:00

東大泉地域集会所 (大泉学園駅徒歩7分)

【身近な川の一斉調査】

恒例の「身近な川の一斉調査」が行なわれます。(新河岸川流域水環境連絡会主催)
当会も、多くの参加者で協力したいと思いますので、よろしくお願いします。

◆6月8日(日) 9時-13時

大泉井頭公園集合

井頭公園、日の出橋、中島橋、新橋戸橋の4地点を4グループに分かれて、水質・水量・水温・生物・風景・川幅などを調査します。

◎ 源流以外も知るチャンスですよ。

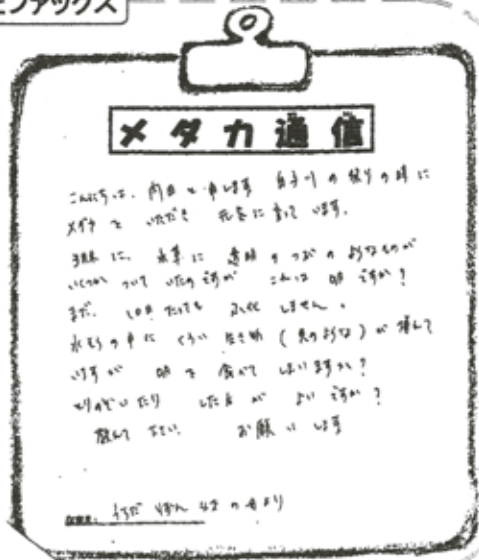
めだか通信

昨年10月14日(日)に開催された第7回「白子川源流まつり」で、めだかをプレゼントされた、うちだりおんちゃん(4才)とお母さんから「めだか通信」が届きました。ありがとうございました。嬉しいです。

めだか博士こと大塚重雄会員からの返事と合わせて、ご紹介します。

うちださんから届いたファックス

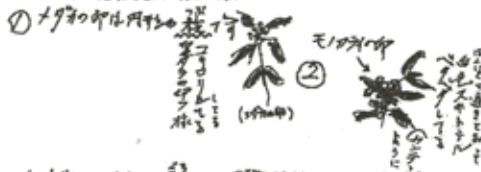
こんにちは、内田と申します。
白子川の祭りの時にメダカをいただき、元気に育っています。
3月末に、水草に透明の”つぶ”のようなものが、いくつかついていたのですが、これは卵ですか？ まだ、10日たってもふ化しません。水そうの中に、くろい生き物(貝のような)が増えています。卵を食べてしまいますか？ とりのぞいたりした方がよいですか？ 教えてください。 お願いします。
うちだりおん 4歳 の母より



大塚会員からの返事

メダカ通信の返事

この卵はメダカの卵ではなく、モノアライ貝の卵です。白色でカンテンの様にプリプリしています。産卵から1週間位でタニシの子の様にふ化してそばにある魚の卵や水アカ等を食べてどんどん繁殖します。



- この卵はメダカでなく、モノアライ貝の卵と
思います。白色でカンテンの様にプリプリし
ています。産卵から1週間位でタニシの子の様に
ふ化してそばにある魚の卵や水アカ等を食
べてどんどん繁殖します。
①メダカの卵は円形の粒(黒タラの卵の様に
コリコリしてる)です。
②モノアライの卵は、カンテンの様にベタベ
タしていて、白色でなく透き通っている。
- メダカは4月中旬頃からひと夏産卵します。
餌は、ニワトリのゆで卵の黄身をとかして、
ほんの少し与えます。多いと水が腐るのでほ
んの1滴2滴程です。ゆで卵の黄身を冷蔵庫
保管して、毎日1かけら(マッチ棒の先のふ
くらみ位)を水に溶かしてあげます。産卵し
たら、卵の付いた水草を別の容器に移してふ
化を待ちます。水温が15℃のなら10日、20℃
なら7日程でふ化します。

メダカは4月中旬頃からひと夏産卵します。(産卵後約10日ほどでふ化します)ニワトリのゆで卵の黄身をほんの少し与えます。多いと水が腐るのでほんの1滴2滴程です。ゆで卵の黄身を冷蔵庫保管して、毎日1かけら(マッチ棒の先のふくらみ位)を水に溶かしてあげます。産卵したら、卵の付いた水草を別の容器に移してふ化を待ちます。水温が15℃のなら10日、20℃なら7日程でふ化します。

7-120. 4.5 大塚

新しい白子川の風物詩 竹キャンドル

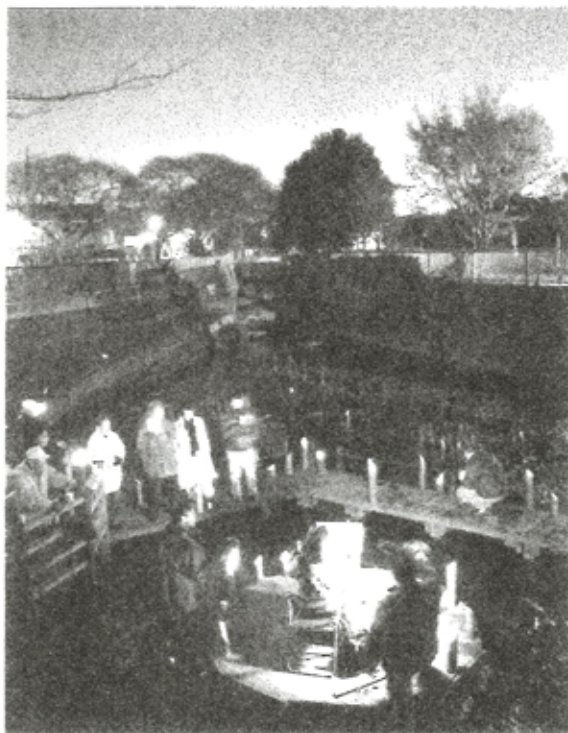
東谷 篤

話はいつも、夜、簡単に決まるもの。「一人ぼっちのクリスマスをなくそう！」これが私たちメンバーの合言葉でした。話が決めれば行動は速いものです。

事前にポスターを貼り出しました。12月24日当日午後2時、メンバー集合。風の強い日でしたが、いささかの迷いもなく、みどり広場運営委員会の協力を得て、竹林から竹を切り出し、のこぎりで片方を斜めに切りました。50本ほどになったでしょうか。それを白子川に下りていく道や木道、川の中に据えて、中にはロウソクを。暗くなりかけた5時に点火。川風の中に、斜めに切った竹の筒から、ロウソクのやわらかな火がこぼれました。まさに圧巻の景色。

そうこうしているうちに、サンタクロースならぬ「セロ弾きびと」が到着。まつりでもおなじみの渋谷英子さんが、駆けつけてくれたのです。川の中の木の舞台に腰掛け、パブロ・カザルスの「鳥の歌」をはじめ何曲も演奏して下さいました。さぞ、真冬の外での演奏は大変なことだったでしょう。幻想的なロウソクの明かりの中で聴くチェロの音色はまた格別なものでした。

堪能した周りの人びとの盛んな拍手の中、初めての企画、白子川の新しい風物詩「竹キャンドル」は終わったのでした。来年はもっと素晴らしい風物詩に成長することでしょう。



今後のスケジュール

5月11日(日)	16:00~30分	アオミドロ除去作業②
17日(土)	13:30~	まちづくりセンター助成金団体の活動報告会。勤労福祉会館
25日(日)	13:30~	【定例】川そうじ、水量等調査。井頭橋に集合
6月 8日(日)	9:00~	◆『身近な川の一斉調査』に参加。11ページに詳細
15日(日)	13:30~	◆第8回定期総会(案内書後日お届け)11ページに詳細
22日(日)	13:30~	【定例】川そうじ、水量等調査。井頭橋に集合
7月13日(日)	16:00~30分	アオミドロ除去作業③
27日(日)	13:30~	【定例】川そうじ、水量等調査。井頭橋に集合
8月10日(日)	16:00~30分	アオミドロ除去作業④
24日(日)	13:30~	【定例】川そうじ、水量等調査。井頭橋に集合

★第4日曜日の定例活動は、13:30スタートになりました。

★夏の大発生前に、新しく「アオミドロ除去作業」を開始します。30分の作業です。

「大泉宝店を目指す会」バスツアー一記

--- これぞ！「コラボレーション」 ---

永井 薫

コラボレーション・・・、コラボする、という語感には、1プラス1が3や4になるような、水面に落ちた一滴の雫が波紋となって幾重にも広がっていく、そんな夢が膨らむようなワクワク感を感じるのは私だけでしょうか。

昨年の晩秋、紅葉が美しい福島県会津田島地方を巡ってきた。今回の旅は、白子川源流・水辺の会が、日頃から大変お世話になっている“大泉宝店を目指す会”がプロデュース及び主催という日帰りバス旅行でした。

“大泉宝店を目指す会”とは、学芸大学付属小学校前にある三又酒店さん、富士見ロード商店街のもんじゃ焼きのわらべさん、白子川の七福橋近くの（有）小林管工さん、井頭商店街のツーリストの太平観光さんをはじめとする、地元の若手店主をメンバーとする異業種交流会である。

今回の旅のキャッチフレーズは、

- ①秋色に染まる旧会津西街道の宿場である大内宿で、名物の「一本ねぎ高遠そば」（長ねぎを箸代わりにして）を食し、
- ②1716年創業、現蔵元が14代目にあたる「開当男山酒造」を見学し、



③塩原元湯温泉「元泉館（露天風呂）」の、にがり湯源泉100パーセント掛け流しの日帰り温泉に浸り、

④三又酒店2代目店主である比留間安邦講師による“酒に係る講義（試飲付き）”を受講し、
すべて費用は12500円というもの。前年に続く2回目のコラボ企画（三又酒店+太平観光）である。

たとえ誇大広告であったとしても、新蕎麦と日本酒と温泉とあれば、もう行くしかない！と参加した旅行でしたが、結果は、満足度100パーセントの中味の濃い旅であった。心温まる御持て成しに加えて、“大泉宝店を目指す会”の若手経営者の方々と、丸一日車中でご一緒し、日々お店で接するお顔とは異なる人となりに触れることができたのは、大きな喜びでした。併せて、地元だからこそその安心感も手伝ってでしょうか、とても優しい気持ちになれた一日でした。

そして、旅のメインは、何と言っても比留間講師による試飲付き講義。聴講するまでは、正直なところ“酒飲みの酒談義だろう”と高を括っていたのですが、どっかい、ハイレベルな内容でそれもレジュメ付き。その穏やかな学者肌のお人柄が物語るとおり、広き深き探究心から培われたと思



われる講義で、販売業者としての鋭い視点を通して淡々と語られるウンチクには、酒店店主としてのお酒への熱き思いと、旨い酒を地元の多くの人々に是非とも楽しんでもらいたいという郷土愛に溢れていて、思わず聞き入ってしまいました。

このところ、またぞろ的に、JAS法違反だ、景品表示法違反だ、食品衛生法違反だと、大手企業や暖簾企業のトップが、見飽きる程頭を下けているが、物をつくる人、売る人のミッションは、安心安全で安く美味しいものを提供することであって、決して儲けることでは無いはず。実直な造り手と真摯な売り手のコラボたればこそ、まがい物が生まれる余地はない。酒の旨さは米と水で決まる、と云われるが、人あつての米と水である。今回、私が、比留間講師、そして、開当男山酒造の蔵元の講義から学んだことは、“本物を見極める生活者でなければ、旨い酒を飲む資格はない”そして“旨い酒を飲む資格を持った者は、実直な造り手と真摯な売り手を護るべく、安易に安価な酒に手を出してはならない”ということであった。酒を通して生活者の真価が問われている、と思いを新たにされた次第である。



私たちは、街の宝になるよう努力するとともに、住民が地元の街で宝探しをするお手伝いをさせていただきます。
(大泉井頭公園 マルバヤナギ前にて)

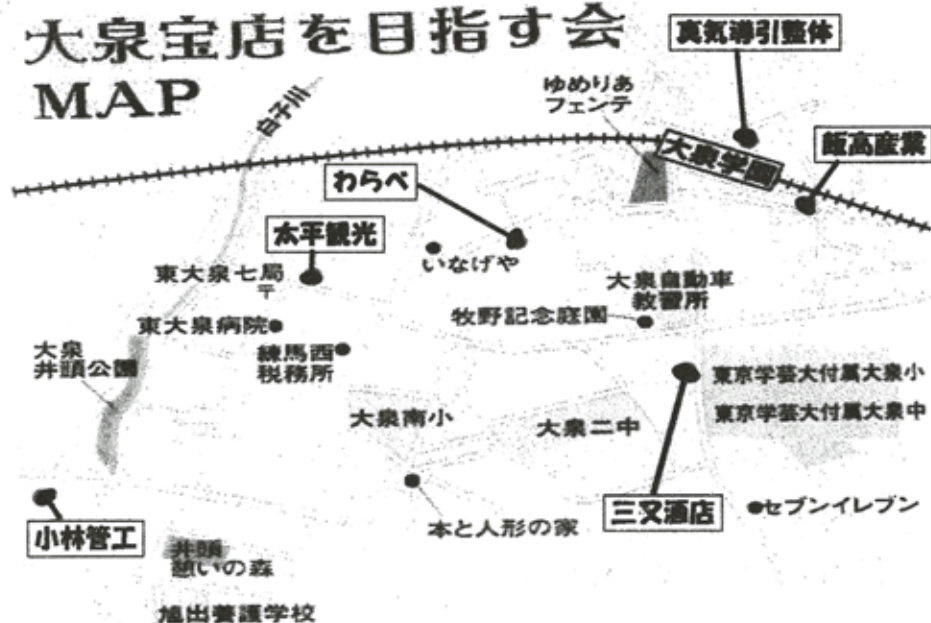
“大泉宝店を目指す会”の皆様、大変お世話になりました。「去年参加して、日本酒が好きになったの、この歳になって・・・」と話された年配のご婦人がおられました。

“大泉宝店を目指す会”という水面に落ちた小さな一滴の雫は、静かにそして確実に、大泉の地に広がっているのではないのでしょうか。

次回は、(有)小林管工さんプロデュース、太平観光さん主催「湧水とホテルを楽しむ旅行会」などは如何でしょうか、新たなるコラボレーションを心待ちにしております。

さて、地元の皆様、来年、ご一緒しませんか。

大泉宝店を目指す会 MAP



横山 松栄

タネツケバナ (種付け花)

春に咲く花です。アブラナ科、火の橋南側のテラス近くの岸辺で3月に咲いていました。白い可憐な花を付けます。

花ピラは4枚あり、葉は赤ちゃんの手の平のように可愛い形をしています。

寒さにも強く越冬します。



編集後記

今から25年前、仕事の都合で和光市内に通ったことがある。石神井公園駅から成増行きバスに乗り、川越街道を走ると、やたらと臭く真っ黒な水の川を渡った。川には、「白子川」と書いてあった。間もなく、テレビで日本で最も汚染されている川として紹介されていた。そんなことを全く忘れてしまった8年前に、私は当会「白子川源流・水辺の会」に入会した。暫く経って、地図を見る機会があり初めてあの「白子川」の上流であることを知った。名前は同じでも、あの強烈な臭いの川を思い出すことはなかったのである。

(渋谷)